

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは8月31日(火) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		8月30日現在 (矢印は7月末比)	9月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 109.92	↗ 108.00 ~ 112.00
	年内テーパリング開始を見据え、ドル円はじり高		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.180	↘ 1.14 ~ 1.20
	ユーロ・円 (円)	↘ 129.67	↘ 125.00 ~ 132.00
欧州経済の優位性は薄れる中、ドル高・円高地合いで下落を予想			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.376	↘ 1.35 ~ 1.39
	ポンド・円 (円)	↘ 151.25	⇒ 148.00 ~ 152.00
景気不透明感からポンドの優位性薄れドル買いで下落しやすい			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↘ 80.20	↗ 79.00 ~ 82.50
	NZドル・円 (円)	↗ 76.94	↗ 76.00 ~ 80.00
新型コロナ対応のロックダウンへの懸念一服とともに買い戻し			
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 27,789	⇒ 26,500 ~ 29,000
	デルタ株の感染拡大から上値が重い一方、下値も限定的		
	NYダウ (ドル)	↗ 35,400	⇒ 34,000 ~ 37,000
ワクチン接種進展と年内テーパリング警戒から動きづらい			
長期 金利	日本 (%)	⇒ 0.022	⇒ 0.00 ~ 0.08
	横ばいとみるが、大型経済対策が金利上昇圧力となる可能性に注意		
	米国 (%)	↗ 1.279	↗ 1.20 ~ 1.45
テーパリング開始、利上げ前倒しが想起されれば一段と上昇			

◆ 今月の注目ポイント

9月は日米独で政治イベント続く、FOMCにも要注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	【コロナ動向】 各地のコロナ感染再拡大の動向が焦点。一部自動車メーカーで部品不足による減産が発表されるなど、東南アジアのコロナ規制による生産動向への影響は懸念される。
金融政策	◎	【FRB金融政策の見通し】 8月のジャクソンホール会議のパウエル議長講演では、年内のテーパリング開始を支持する姿勢が示され、正式決定はいつか、買入縮小のペース、その先の利上げ見通し等が、今後の論点となるだろう。まずは9/3の米雇用統計で雇用回復状況を確認。9/22のFOMCではテーパリング議論の更なる進展と、新たに2024年見通しが示されるドットチャート（FOMC参加者の政策金利見通し）の内容が注目される。
政治	◎	【各国で政治イベント続く】 米国では議会が夏季休会から再開し、インフラ投資法案や来年度予算、債務上限問題の動向がリスク要因。日本は9/29の自民党総裁選に向けた動きが活発化。9/26に行われるドイツ総選挙はメルケル政権後の政治体制を左右する重要イベント。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	↘	16.7 ~ 17.2	レアル・円	↘	19.5 ~ 21.5
バーツ・円	↗	3.33 ~ 3.47	メキシコペソ・円	↘	5.30 ~ 5.50
ルピア・円	↘	0.75 ~ 0.78	ルーブル・円	↘	1.45 ~ 1.52
ルピー・円	↗	1.48 ~ 1.53			

◆ 今月の重要日程

1日(水)	米	8月ISM製造業	22日(水)	日	日銀金融政策決定会合
3日(金)	米	8月雇用統計	22日(水)	米	FOMC (結果発表)
9日(木)	欧	ECB理事会 (結果発表)	23日(木)	欧	9月PMI
14日(火)	米	8月CPI	24日(金)	日	8月CPI
15日(水)	中	8月生産・小売・投資	26日(日)	独	総選挙
16日(木)	米	8月小売売上高	29日(水)	日	自民党総裁選投票

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

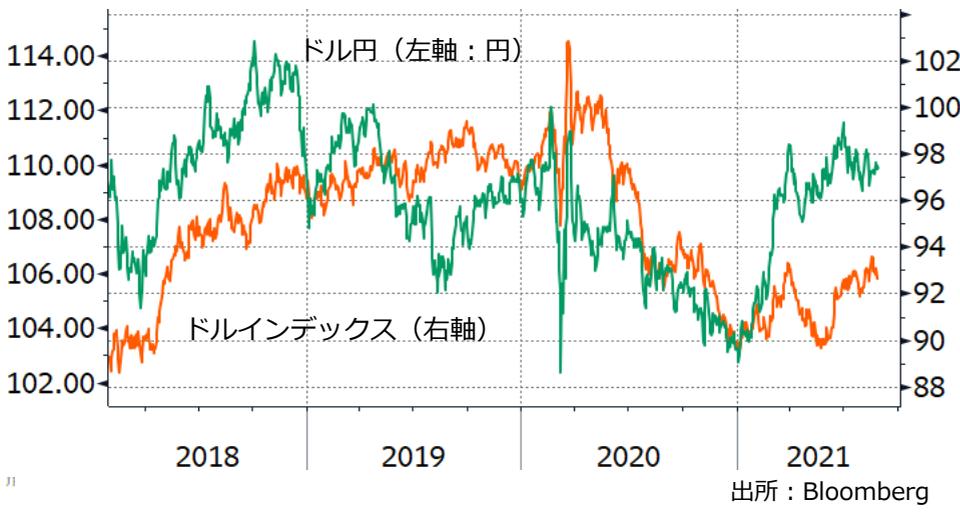


リそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年9月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円

米ドル円 ドル円は上昇 **108.00 - 112.00円**



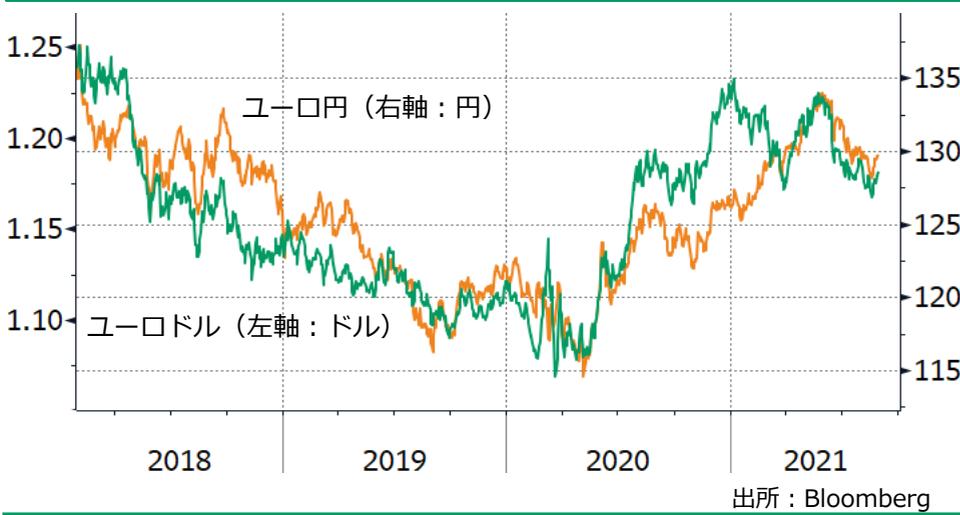
年内のテーパリング開始を見据え、ドル円はじり高

8月のドル円相場は110円を挟んだ狭いレンジでもみ合いが続いた。FRB高官からのタカ派的な発言が相次いだことから米国長期金利が底打ちし、ドル円相場も111円に迫る場面があったものの、米国物価指標の上昇に一巡感が見られたこと等から失速し、その後は月末に控えたジャクソンホール会合でのパウエル議長の講演を見極めたいとのムードが広がり、方向感の出づらな神経質な展開が続いた。

注目されたジャクソンホール会合でのパウエル議長の講演は概ね想定内と受け止められたが、月初のクラリダ副議長の発言から続いた、一連のテーパリングに対する前向きな議論の集大成とも言える内容とも言え、年内にテーパリングが開始される確度は相応に高まったと考えられる。今後は再び米経済のファンダメンタルズへと焦点は移行し、失業給付期限切れの影響が注目される雇用統計や、物価指標への関心が高まっていくだろう。9月FOMCでのテーパリング決定は時期尚早と考えているが、一定の警戒は必要であろう。次期FRB議長・副議長人事が本格化していく点や、米政府の債務上限問題に材料視される可能性があるが、年内テーパリング開始を見据え、米金利とともにドル円相場もジワリと上昇する展開を予想する。

ユ ー ロ

ユーロドル ユーロドルは下落 **1.14 - 1.20ドル**
ユーロ円 ユーロ円は下落 **125.00 - 132.00円**



ドル高・円高地合いのなか、ユーロドル・ユーロ円ともに下落を予想

8月のユーロ相場は、対ドル、対円ともに上値の重い展開となった。ECBの戦略見直しによってユーロ圏では緩和的な金融環境が長期化する可能性が高まった一方、米国ではFRB高官によるタカ派的な発言が相次ぎ、両経済圏の金融政策の方向性の違いから、当面のユーロは対ドルで上値の重い展開が続く公算が高い。欧州においても新型コロナウイルスのデルタ株の蔓延が深刻化しており、ワクチン接種の進展や経済活動再開で先行していた欧州経済の優位性は薄れつつある。アフガニスタンでの地政学的リスクの高まりも、相対的に安全資産とされる円の上昇要因となり、ドル高・円高地合いのなかではユーロ円をはじめとしたクロス円相場の重石となりやすいだろう。

9月26日にはドイツで総選挙が行われる。16年の長期に渡って安定政権を維持したメルケル首相の後任を選ぶことになるが、現状各党の支持率は拮抗しており、連立を巡るせめぎ合いで政治空白が生まれるようだと、欧州市場の不安定化に繋がる可能性もあるだろう。

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

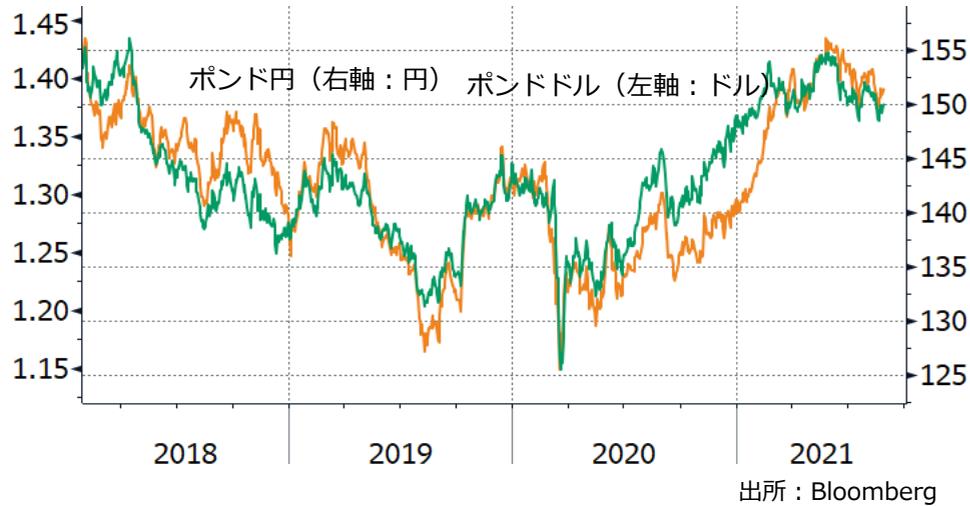
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年9月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



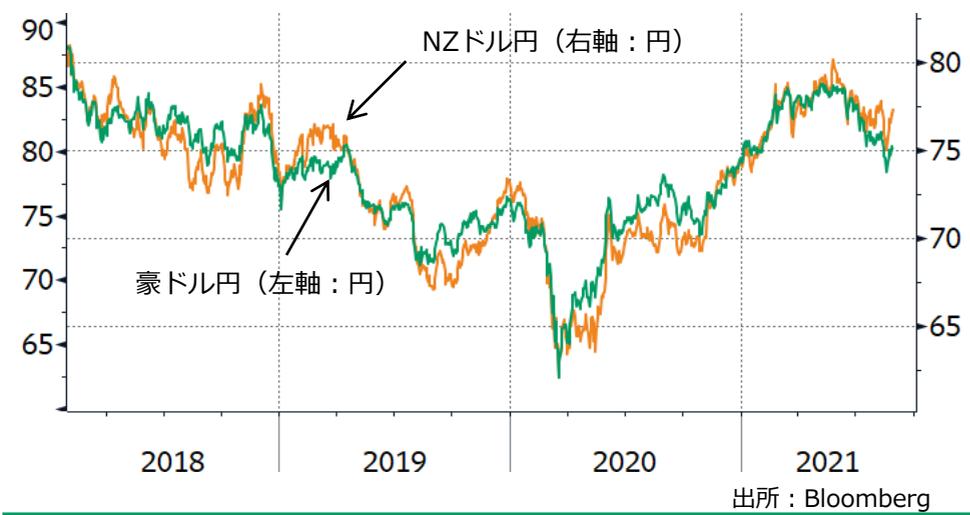
ポンドドル	ポンドドルは下落	1.35 - 1.39ドル
ポンド円	ポンド円は横ばい	148.00 - 152.00円

ポンドドルは下落、ポンド円は横ばいを予想

8月のポンドは対ドル、対円ともに下落となった。月初にBOEが政策金利の据え置きを決定し、緩和政策の出口戦略の指針を公表した。具体的に保有債券の再投資の停止のための金利条件を従来の1.5%から0.5%に引下げた。これを受けてポンドは上昇したが、良好な米雇用統計を経て米早期金融緩和縮小観測からドル買いが進行し、それ以来ポンドの下落基調が続いた。

9月のポンドはドルに対して下落を予想。7月下旬にイギリスではロックダウンが解除されて以来、コロナ感染者が減少から増加に転じたが、高いワクチン接種率が奏功し、入院者と死亡者数が増えたものの、緩やかな増加にとどまっている。今後再度のロックダウンの可能性は低いだろう。しかし、経済指標はまちまちであり、景気先行き不透明感は強い。このような状況でポンドの比較優位性が薄れており、米テーパリング観測からドル買いが進行しやすく、ポンドドルは下落を想定。ポンド円はもみ合いの展開になりそう。

豪ドル・NZドル



豪ドル円	豪ドル円は上昇	79.00 - 82.50円
NZドル円	NZドル円は上昇	76.00 - 80.00円

新型コロナ対応のロックダウンへの懸念一服とともに買い戻しが入ると予想

8月のオセアニア通貨は月半ばにかけてはリスク回避の円高、ドル高が進み下値を探る展開も月末にかけては買い戻された。月間では豪ドル円は下落しNZドル円は上昇。豪ドルは新型コロナ感染拡大によるロックダウンの影響で経済停滞への懸念が出ていることやアジア圏の経済減速の影響が売り材料。NZドルは新型コロナ感染者発生を受けたロックダウンやその影響で予想外に8/18会合での利上げが見送られたことが下押し要因となったが、今後利上げを行う方針を堅持したことで底堅く推移している。

今月の豪ドル円、NZドル円は上昇を予想する。足元ではロックダウンが下押し要因となっているが、ワクチン接種の進展等により、徐々に明るい材料も出てくる。東南アジアの感染動向も一部地域ではピークアウトに向かっている。こうした環境下で豪州、NZとも金融政策の引き締め方向の動きが意識されれば目先は両通貨に買いの動きが入りやすいと予想する。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

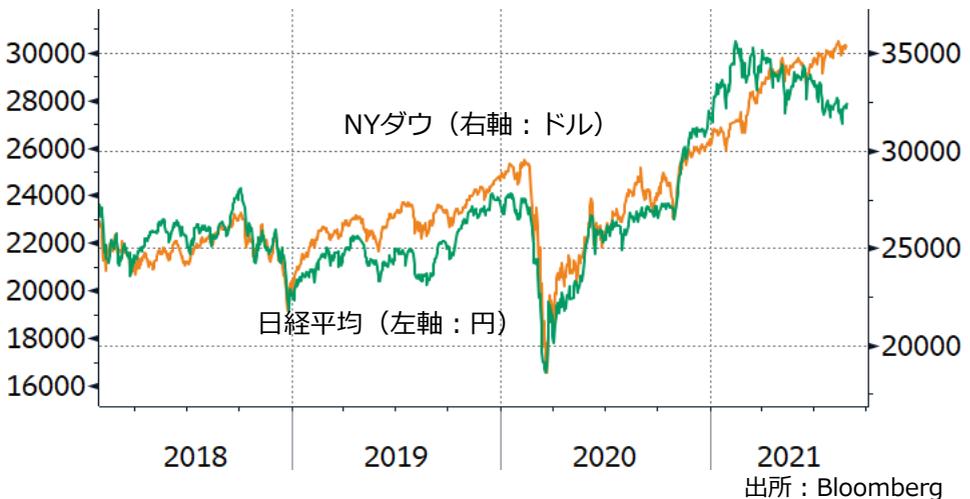
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年9月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

26,500 - 29,000円

日経平均は横ばいを予想

8月の日本株は、米国株価が最高値を更新する中、グローバルなデルタ株の拡大や国内の緊急事態宣言対象地域の拡大等を受け上値の重い展開となった。今月の日本株は横ばいからやや底堅い推移を予想。夏休み明けの学校を介した感染拡大には注意が必要だが、足元感染拡大にピークアウト感も見られつつあるほか、自治体へのワクチン供給も再開されることから若年層への接種も進む可能性。また自民党総裁選で新総裁誕生となれば期待感から株価にもポジティブ。

NYダウ

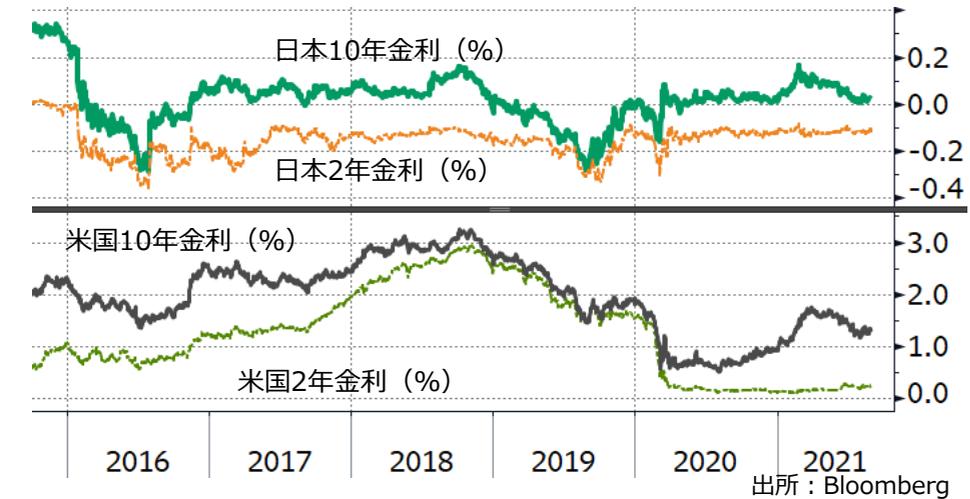
⇒ ダウは横ばい

34,000 - 37,000ドル

NYダウは横ばいを予想

ワクチン接種により経済の正常化が進む中で、米国経済は底堅い回復となっており、相対的に安全な米国株は引き続き底堅い展開を予想。一方アフガニスタン情勢が混迷するなか、インフラ投資法案や債務上限問題等でバイデン政権の手腕が問われる。またFRBは年内のテーパリング開始に向け粛々と進み中、金利が上昇する局面があれば株価も不安定化しやすく、注意が必要とみる。

長期金利見通し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.00 - 0.08%

日本国債は金利横ばいを予想

8月の円金利は米金利の上昇にやや連れる場面もありものの、概ね横ばい圏での推移となった。今月は米金利は債務上限問題等上昇圧力もかかりやすく、円金利は一段の低下余地は乏しいものの、横ばい圏での推移が続くものと予想。今月末に行われる自民党総裁選において菅首相が再任となった場合には大型補正予算編成も想起され、金利には上昇圧力も。

米国債10年

⇒ 金利は上昇

1.20 - 1.45%

米国債は金利上昇を予想

8月の米金利は大幅低下で始まったものの、下院で3.5兆ドルの予算決議案が可決となったことや、FRBが年内のテーパリング開始を示唆したことなどから上昇。今月の米金利も上昇を予想。上院で可決済みのインフラ投資法案と、下院で可決済みの予算決議案の動向に加え、債務上限問題は引き続き膠着。またFRBが粛々とテーパリングに向けて進む中、米景気の回復が継続すれば利上げの前倒しも想起され、一段の金利上昇の可能性も。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年9月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		8/30		9月の予想	8月のレビュー	9月の見通し
中国	人民元/円	16.99	↓	16.7~17.2	ドル人民元は横ばい圏の動き。良好な米国雇用統計やFRBの早期金融引き締め観測、リスク回避のドル高地合いで、ドル人民元は6.5台に上昇する場面もあったが、その後のドル安で6.4台半ばまで値を戻した。人民元自体の動きは底堅く、通貨バスケットに対する人民元指数は2016年以来の高水準。対円でも1元17円を挟んでもみ合い月間でほぼ横ばい。	ドル人民元相場は上昇(元安)を予想。中国経済にやや減速感がみられるほか、規制強化の動きは中国への資金流入の抑制要因で元高地合いも一服しやすい。こうした中で米FRBの引き締めが意識されるとドル買い優勢で、ドル人民元はじわりと上昇とみる。人民元安は輸出産業への支援としてポジティブな面もあり、当局もドル高主導の緩やかな動きであれば容認するとみられる。
	ドル/人民元	6.47	↑	6.42~6.57		
タイ	バーツ/円	3.38	↑	3.33~3.47	8月のドルバーツ相場は下落(バーツ高)。月前半は1ドル33バーツに迫り上昇。感染状況の悪化によるバーツ安とドル高地合いで月前半は33.4バーツ台に上昇。しかし2018年来の上値近辺であるこの水準ではバーツ買いも入り上昇一服。月末にかけて新規感染者数が減少に向かうと、バーツ買い戻しが優勢となり、ドルバーツは7月末比下落に転じた。	感染者数のピークアウトを受けて過度な懸念の後退から当面バーツは底堅く推移しやすいとみる。ただし、ワクチン接種は低位に留まり感染再拡大のリスクは続くほか、経済見通しは低調で当面金融政策は緩和的となりやすく、緩和縮小へと舵をきる他国との対比からバーツ高は持続的とはなりづらい。9月のドルバーツは1ドル32バーツ台前半を中心としたレンジを予想。対円は上昇とみる。
	ドル/バーツ	32.46	↑	31.8~33.0		
インドネシア	ルピア/円	0.765	↓	0.75~0.78	8月は月初にルピア高が進行。新型コロナの感染者数が7月半ばをピークに減少に転じたことが材料となり、ドルルピアは14,300ルピア台前半まで下落した。ただし感染対策を当面続ける必要がありインドネシア経済の本格的な回復には時間がかかるほか、東南アジア圏の感染拡大により域内経済停滞の影響を受けやすく、買い一巡後は月末にかけ弱含みとなった。	9月のドルルピア相場は上昇(ルピア安)を予想。8/19のインドネシア中銀会合では金融政策の据置きを決定、インフレ率も低位に留まる中で景気支援のため当面緩和的な政策が維持される見通し。またワクチン接種が低位に留まっており感染再拡大リスクも孕んでいる。こうした面が意識されるとルピア相場は目先弱含みやすとみている。
	ドル/ルピア	14,370	↑	14,200~14,600		
インド	ルピー/円	1.50	↑	1.48~1.53	8月のルピー相場はもみ合いの展開が続いた後、月末にルピー高が進行。米パウエルFRB議長が利上げを急がないとの趣旨の発言を行ったことでドル安が進行し、インドルピーを含むアジア通貨は広範に買われた。8/6のインド中銀会合では予想通り政策金利が4.00%で据え置きとなり為替への影響は限定的であった。	8月のドルルピー相場は下落(ルピー高)を予想。新型コロナの感染動向はピーク時と比較すると落ち着いており、経済回復への期待が相場の支えとなる。また、消費者物価は7月前年比+5.59%で中銀が定める目標水準の4%±2%の範囲内となったが、引き続きインフレ圧力は燻っており警戒は残る。金融引き締めが意識されるとルピー高が一層進行する可能性。
	ドル/ルピー	73.27	↓	72.0~74.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨 (中南米・ロシア)

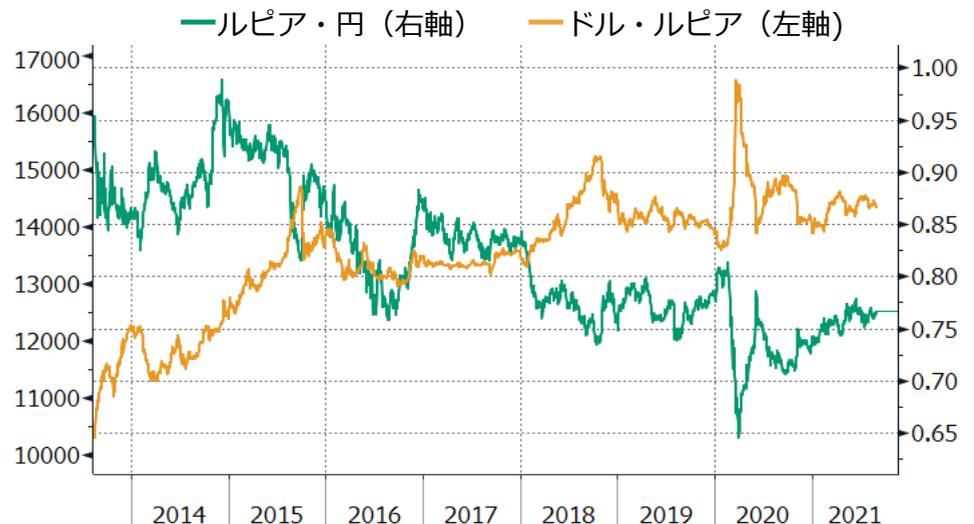
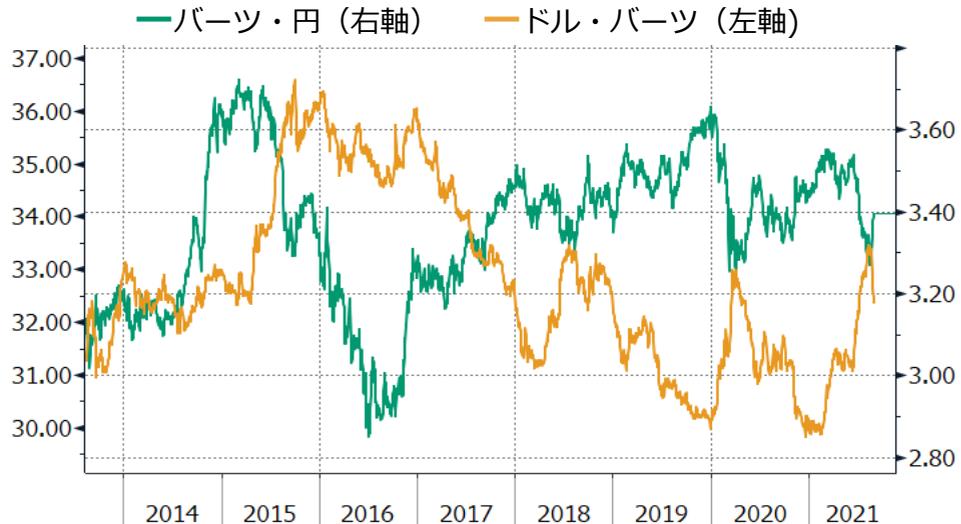
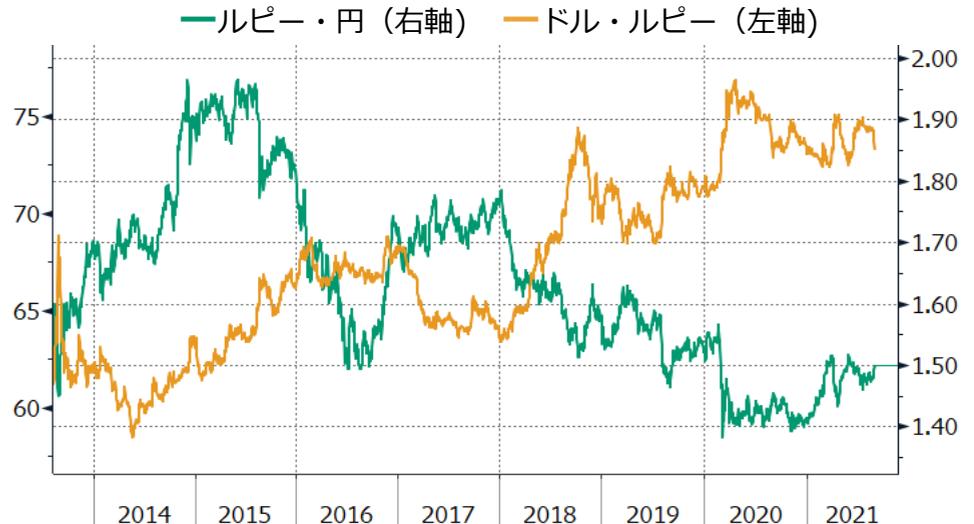
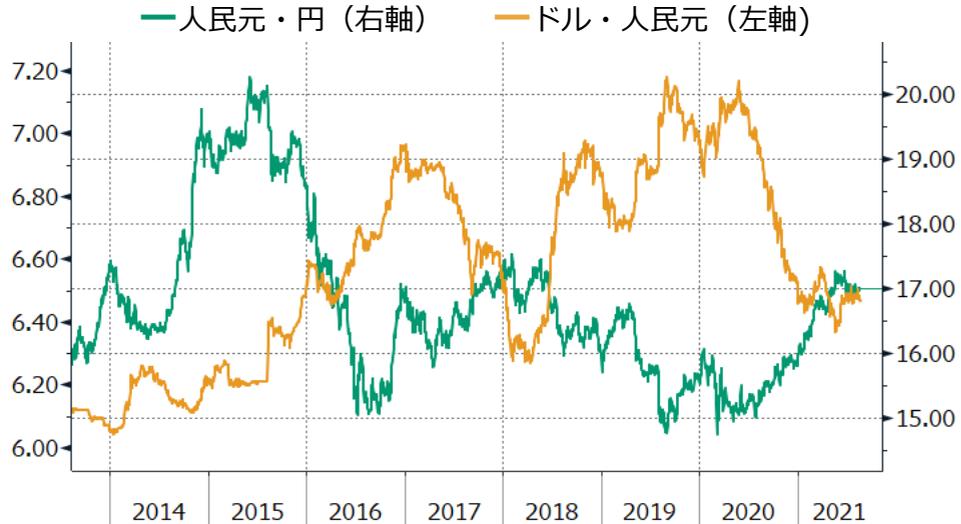
		8/30		9月の予想	8月のレビュー	9月の見通し
ブラジル	レアル/円	21.20	↘	19.5~21.5	8月のブラジルレアルは軟調に推移したが月末にかけては上昇。8月5日にブラジル中銀は政策金利を引上げ、次回会合での追加利上げを示唆したが、軟調な原油価格と鉄鉱石の価格を背景に、レアルは続落した。レアルは20日一時5.47まで下落した後は、レアル売りが一巡し、原油価格と鉄鉱石価格の反発を受け、上昇に転じた。	9月のブラジルレアルは中国の経済減速と米国早期金融緩和縮小観測から、対ドル、対円で下落を予想。9月にブラジル中銀の追加利上げが実施されれば、レアルのサポートになるが、FRBテーパリングが意識される中、海外資本の流出観測から、上値は重いであろう。また中国経済の減速による鉄鉱石の需要減もネガティブ材料になるだろう。
	ドル/レアル	5.19	↗	5.00~5.40		
メキシコ	ペソ/円	5.46	↘	5.30~5.50	8月のメキシコペソは対ドル、対円でともに下落した。月初から原油価格の下落に伴い、メキシコペソも軟調に推移した。8月12日にメキシコ中銀が市場予想通りに利上げを行ったが、ペソは下落で反応した。その後も下落基調が続いたが、原油価格の反発を受け、やや下げ幅を取り戻した。	9月のメキシコペソは対ドル、対円で下落を予想。8月メキシコ中銀は利上げしたが、インフレの見通しも引き上げており、今後追加利上げも考えられる。これは一定のサポート材料になるだろうが、原油の需要減と米金融政策正常化の前倒しがペソの重荷になる可能性が高い。
	ドル/ペソ	20.14	↗	19.8~20.8		
ロシア	ルーブル/円	1.50	↘	1.45~1.52	8月のロシアルーブルは、対ドル、対円でともに下落した。米金融政策正常化前倒し観測からドル買いが進行し、ルーブルは下落した。軟調な原油価格もルーブルの押下げ要因になった。月末にアフガニスタンを巡る地政学リスクの高まりも投資家心理を悪化させた。	9月のロシアルーブルは対ドル、対円で下落を予想。9月にロシア中銀がインフレ目標の引下げの検討を行う可能性があり、ルーブルの重荷になるだろう。原油価格の反発も見込みにくい中、地政学リスクへの警戒からルーブルは軟調に推移する可能性が高いとみる。
	ドル/ルーブル	73.51	↗	72.5~76.0		

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

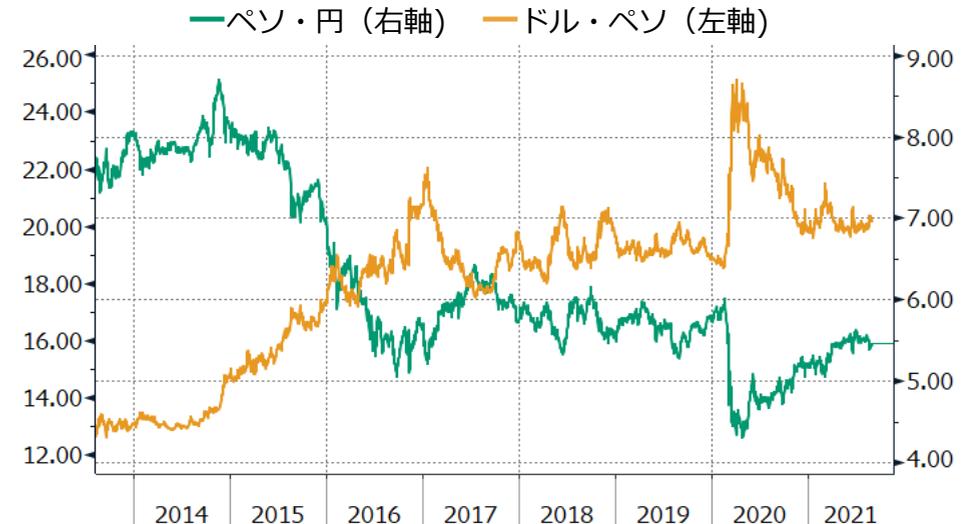
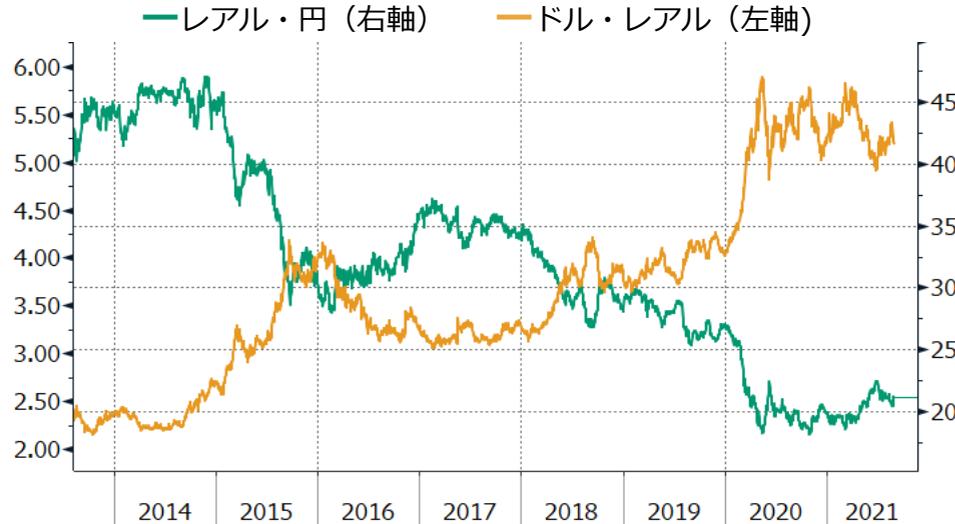
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年9月号)

◆ 年間為替見通し

		2021年		2022年		ポイント
		9月	10~12月	1~3月	4~6月	
ドル円	レンジ	108~112	109~115	110~115	110~120	FRBの早期テーパリング&利上げ前倒し期待からドル円上昇のタイミングを手前に修正。
	期末値	110	112	113	115	
ユーロドル	レンジ	1.14~1.20	1.12~1.19	1.10~1.18	1.10~1.16	ECBの戦略見直しにより、FRBと比較して緩和は長期化する見込み。独メルケル首相の引退や仏大統領選等、政治リスクもユーロの重石となり、ユーロ安トレンドが継続する。
	期末値	1.16	1.14	1.13	1.12	
ユーロ円	レンジ	125~132	124~133	124~133	122~132	
	期末値	128	128	128	128	
ポンドドル	レンジ	1.35~1.39	1.30~1.42	1.29~1.40	1.28~1.38	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、原油価格の上昇一服などもポンドの上値を抑えるとみる。
	期末値	1.37	1.35	1.34	1.33	
ポンド円	レンジ	148~152	144~158	143~157	145~158	
	期末値	151	149	150	152	
ドル人民元	レンジ	6.42~6.57	6.35~6.70	6.40~6.80	6.35~6.80	米金融政策面から徐々にドル高地合いに転じることでドル人民元は年末にかけレンジを切り上げも、堅調な中国経済を背景に元安は限定的
	期末値	6.52	6.50	6.60	6.50	
人民元円	レンジ	16.7~17.2	16.4~17.5	16.4~17.5	16.8~18.0	
	期末値	16.9	16.9	17.0	17.5	
豪ドル円	レンジ	79.0~82.5	80.0~86.0	82.0~88.0	84.0~90.0	目先はリフレトレードの巻き戻しで上値重い、中銀のハト派姿勢転換から豪ドル上昇地合いの可能性
	期末値	81.5	84.0	86.0	88.0	
タイバーツ円	レンジ	3.33~3.47	3.25~3.70	3.30~3.70	3.35~3.70	感染者数の一旦のピークアウトから年末にかけ持ち直しも、タイ経済は弱含みが警戒され上値重い
	期末値	3.40	3.45	3.50	3.50	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
9/1(水)	4-6月期法人企業統計調査	8月ADP雇用統計 8月ISM製造業景況指数	(中) 8月製造業PMI
9/2(木)		7月製造業受注 7月貿易収支	
9/3(金)		8月ISM非製造業景況指数 8月雇用統計	
9/6(月)		(労働感謝の日)	(中) 8月貿易統計
9/7(火)	7月家計調査 7月毎月勤労統計 (速報)	3年債入札	(豪) 準備銀行理事会 (独) 9月ZEW景気指数
9/8(水)	4-6月期GDP (二次速報値) 8月景気ウォッチャー調査	10年債入札 米地区連銀経済報告	
9/9(木)		30年債入札	(欧) ECB定例理事会 (中) 8月CPI
9/10(金)		8月PPI	
9/13(月)	8月企業物価指数		
9/14(火)		8月CPI	
9/15(水)	7月機械受注	9月NY連銀製造業景気指数	(中) 8月生産・小売・投資
9/16(木)	8月貿易統計	8月小売売上高 9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
9/17(金)			

	日本	米国	その他
9/20(月)	(敬老の日)		
9/21(火)		20年債入札 8月住宅着工・許可件数	
9/22(水)	黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)	8月中古住宅販売 FOMC (結果発表)	
9/23(木)	(秋分の日)		(英) BOE金融政策委員会 (欧) 9月PMI (速報値)
9/24(金)	8月消費者物価指数	8月新築住宅販売	(独) 9月IFO企業景況感指数
9/27(月)		2年債入札 5年債入札	
9/28(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨	7年債入札 9月消費者信頼感指数	
9/29(水)			
9/30(木)	8月鉱工業生産 8月住宅着工件数	4-6月期GDP (確定値)	(中) 9月PMI (中) 9月製造業PMI



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

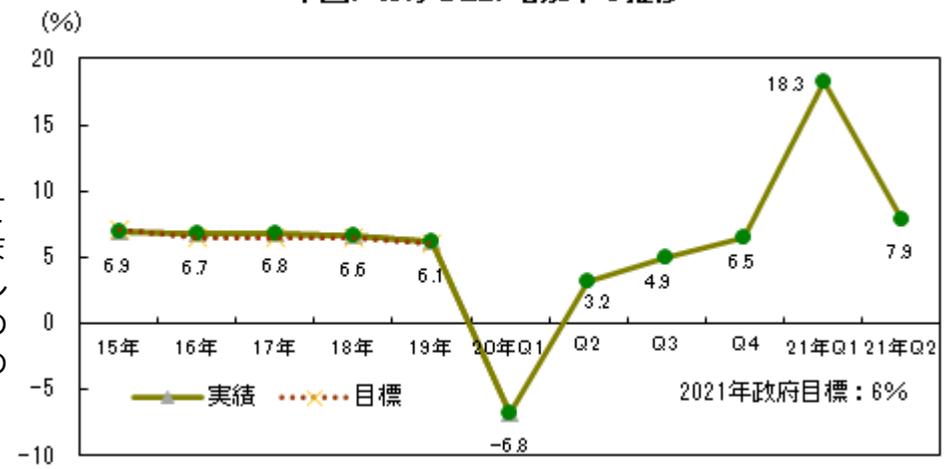
りそな銀行上海駐在員事務所

【7/30~8/5】

◎ 人民銀穩健な金融政策を維持

中国人民銀行（中央銀行）は30日、今年下半期（7-12月）は穩健な金融政策の維持など8項目の重点任務を公表した。特に融資について、合理的な伸び幅にし、実体経済の安定成長につなげると表明した。また、人民元国際化、クロスボーダー人民元業務の政策整備及びデジタル人民元試験など金融改革の推進を継続する。一方で、独占禁止と資本の無秩序な拡大を防ぐ為、プラットフォーム企業の金融業務や暗号資産の違法な活動の取締りを強化する方針も強調した。

中国におけるGDP増加率の推移



【8/6~8/12】

◎ 1~7月の貿易額35%増 外部需要の回復が続く

中国税関総署が7日公表した今年1月から7月までの貿易統計による貿易額合計は、前年同期比35.1%増の3兆2,956億米ドル（約363兆3,400億円）となった。うち、東南アジア諸国連合との貿易額が35.2%増の4,815億米ドル、欧州連合が33.9%増の4,574億米ドル、対米貿易は40%増の4,046億米ドルである。一方、中国主導の「一帯一路」沿線国の貿易額がやや低く25.5%増となった。外部需要回復の流れが続き、輸出入をともに押し上げた。

月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【8/13～8/20】

◎ 7月主要経済指標伸び鈍化

中国国家統計局が16日に発表したデータによると、新型コロナウイルスの国内感染や豪雨被害など影響を受けたものの、内外需の拡大が主要経済指標を押し上げている。一方で、伸び幅は鈍化しており、年内は同じ傾向が続くとみられている。また、中国政府が重視する雇用関連の指標が全国都市部失業率5.1%となり、今年目標である「5.5%前後」の範囲内に収まっている。なお、1-7月の都市部新規就業者数は822万人で、通年目標の「1,100万人以上」に対する達成率は74.1%に達した。

【8/20～8/26】

◎ オンライン診察市場コロナ禍で急拡大

中国ではオンラインで診察可能な「インターネット病院」が急拡大している。公立病院を中心にネット病院は現在1,600カ所を超えた。新興技術の普及や新型コロナウイルスによる影響の継続が遠隔・在宅での診断需要を押し上げているほか、高齢化の進行や政策支援などの要因も重なり、ネット病院の設置数と診察範囲が引き続き拡大していくとみられている。市場規模については、現在1,630億元となっており、今後は更に拡大していくと予測されている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7
実質GDP成長率	%	4.9	-	-	6.5	-	-	18.3	-	-	7.9	-
消費者物価上昇率	%	1.7	0.5	-0.5	0.2	-0.3	-0.2	0.4	0.9	1.3	1.1	1.0
都市部調査失業率	%	5.4	5.3	5.2	5.2	-	5.5	5.3	5.1	5.0	5.0	5.1
輸出額	10億ドル	238.6	236.2	266.9	281.7	263.7	204.7	240.9	263.7	263.8	281.4	282.7
輸入額	10億ドル	203.2	178.9	192.5	205.7	201.5	168.7	228.3	221.7	218.6	229.9	226.1
経常収支	100万ドル	150,215	-	-	273,980	-	-	69,446	-	-	122,246	-
外貨準備高	10億ドル	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5	3,210.7	3,205.0	3,170.0	3,198.2	3,221.8	3,214.0	3,235.9
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.81	6.70	6.60	6.54	6.47	6.46	6.51	6.52	6.42	6.43	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年9月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○「適老」アプリ 若者にも人気

中国の工業・情報化部は「デジタルギャップをなくそう」という高齢者を支援する一環として、「適老」アプリ（お年寄り利用者向けのアプリ）に対するガイドラインを発表し、広告メッセージ、外部リンクの自動ジャンプなどを禁止することを明確にしました。

多くのアプリがそれに応じて、大きい文字サイズのほか、様々な広告ページがなく、機能やコンテンツは簡単で明確である適老アプリを開発してリリースしています。最近、適老アプリはポップアップ広告などを嫌がる若者の中でも人気を呼んでいるようです。

そもそも年齢を問わず、すべてのネットユーザーが広告からの「嫌がらせ」を免れる要望があるのではないかと推察されますが、残念ながら一般利用者としてはなかなかサービス提供者に対抗できる力はありませんので、煩わしさから解放されれば良いなと思っています。

○ユニバーサル北京 9月1日プレオープン

ユニバーサル北京リゾート（UBR）が、9月1日にプレオープンする予定です。試験運営のため3か月に及んだトライアル実習が行われたようです。プレオープン期間においては、主にユニバーサル提携先を中心に招待客を迎えると伝えられています。正式な入場チケットはまだ販売されておらず、料金基準も発表されていません。北京の友人の話によると、噂ではチケットは800元/人（約13,600円）を上回る可能性があるようです。

UBRの公式宣伝資料にて、人気があるワールド・オブ・ハリポッターのほか、初のトランスフォーマー・パークやカンフーパンダ・パークなどもオープンすると明らかにされました。また、UBRの公式宣伝資料に取り上げられた中国ファミリーのイメージはさっそく二人っ子を持つ四人家族にしたことに気づき、政策的な意図があるなと思いました。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年9月号)

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイの景気動向

◆タイ中央銀行が発表した2021年6月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済に新型コロナウイルス感染拡大第3波が引き続き影響を及ぼしている。個人消費指数は前年同月比1.2%下落。耐久消費財と半耐久消費財が伸びたが、伸び率は前月比鈍化した。民間投資指数は同18.3%上昇。機械・設備分野の投資が増加したものの、建設投資は建設現場封鎖措置と国内需要の低迷により減少。工業生産は自動車、石油製品、建設資材の生産減少に伴い、前月比小幅減少した。一方、公共投資は引き続き国内景気を下支している。

◆タイ商務省によると、2021年6月の輸出額は前年同月比43.8%増の236億9,943万米ドルと、前月に続き11年ぶりの高い伸びを記録した。新型コロナウイルスの感染状況の改善により世界的な需要の回復等が挙げられる。工業製品は同44.7%の大幅増と4カ月連続のプラス、農産物・加工品の輸出は同36.0%増と7カ月連続のプラスとなった。自動車・同部品、コンピューター・同部品、石油関連製品の輸出は増加した。セメント、医薬品、電話機・テレビ受像機等は減少した。市場別では、米国、中国、日本、欧州連合（EU）、東南アジア諸国連合、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、

ベトナム）向けは増加した。6月の輸入額は同53.8%増の227億5,437万米ドル。この結果、貿易収支は9億4,506万米ドルの黒字となった。一方、6月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=31.45パーツで、前月の31.29パーツ比パーツ安だった。

◆タイ商務省が発表した7月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.45%上昇し、4カ月連続で前年同月を上回ったが、5月から上昇幅の縮小が続いている。政府が新型コロナウイルスの影響緩和に向けて電気・水道料金への補助措置を再導入したこと等が挙げられる。食品・飲料は同0.47%下落した。非食品は同1.06%上昇。また、今年1～7月のCPI平均値は前年同期比0.83%上昇した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7
実質GDP成長率	%	-6.4	-	-	-4.2	-	-	-2.6	-	-	7.5	-
消費者物価上昇率	%	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.3	-1.2	-0.1	3.4	2.4	1.3	0.5
失業率	%	1.8	2.1	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-
輸出額	100万ドル	19,671	19,377	18,960	20,076	19,707	20,219	24,222	21,429	23,058	23,699	-
輸入額	100万ドル	17,391	17,330	18,880	18,958	19,909	20,212	23,512	21,247	22,262	22,754	-
経常収支	100万ドル	1,440	674	-1,294	-574	-903	-1,347	-1,168	-1,298	-2,624	-1,305	-
外貨準備高	10億ドル	251.1	248.5	253.5	258.1	256.8	253.9	245.5	250.4	251.8	246.5	248.0
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	31.4	31.3	30.5	30.1	30.0	30.0	30.8	31.3	31.3	31.5	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年9月号)

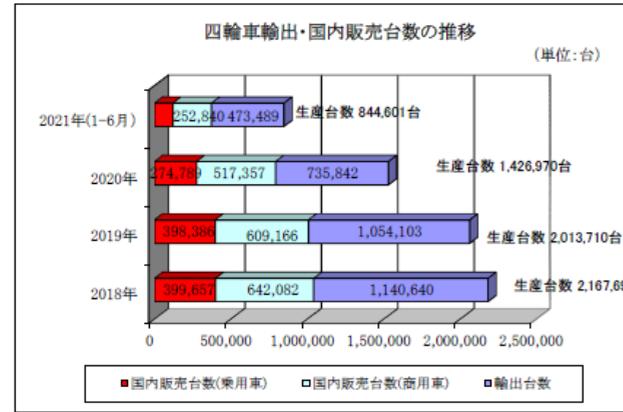
タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟(FTI)

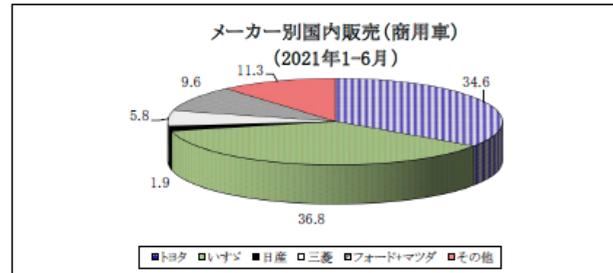
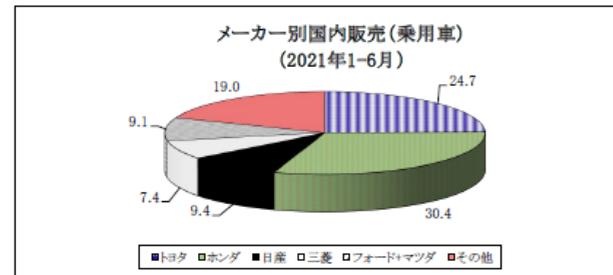
		2018年	2019年	2020年	2021年 (1-6月)	前年同期比 (%)	6月	
【台数】 (台)								
四輪	生産台数	乗用車	884,609	804,340	542,437	296,977	129.9	49,714
		商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	547,624	145.0	84,531
		合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	844,601	139.3	134,245
	国内販売台数	乗用車	399,657	398,386	274,789	120,351	100.5	22,538
		商用車	642,082	609,166	517,357	252,840	121.0	42,436
		合計	1,041,739	1,007,552	792,146	373,191	113.6	64,974
輸出台数	1,140,640	1,054,103	735,842	473,489	135.1	83,022		
二輪	生産台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	1,005,313	147.3	173,721	
	国内販売台数	1,788,323	1,718,587	1,516,096	872,279	119.2	161,105	
	輸出台数	886,275	948,839	727,152	487,115	136.9	95,089	
【完成車輸出金額】 (百万円)								
四輪		594,810	545,968	410,912	270,708	144.0	49,278	
二輪		61,654	69,933	85,802	41,738	134.6	7,190	



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-6月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	6月
トヨタ	乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	29,703	99.3	24.7	5,414
	商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	87,482	136.1	34.6	16,923
	合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	117,185	124.4	31.4	22,337
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	93,165	122.5	36.8	14,098
	合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	93,165	122.5	25.0	14,098
ホンダ	乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	36,586	106.0	30.4	6,422
	商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	6,129	90.0	2.4	917
	合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	42,715	103.4	11.4	7,339
日産	乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	11,294	89.3	9.4	1,555
	商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	4,733	53.4	1.9	715
	合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	16,027	74.5	4.3	2,270
三菱	乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	8,962	86.6	7.4	1,540
	商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	14,566	94.5	5.8	2,404
	合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	23,528	91.3	6.3	3,944
その他	乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	33,806	104.7	28.1	7,607
	商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	46,765	124.9	18.5	7,379
	合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	80,571	115.5	21.6	14,986
合計	乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	120,351	100.5	100.0	22,538
	商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	252,840	121.0	100.0	42,436
	合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	373,191	113.6	100.0	64,974



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。